



# つばめ農園おひさま便り

37

安溪貴子・安溪遊地

## 少しずつ交流が復活

お正月はどのようなにお過ごしでしょうか。暖冬のなか、つばめ農園では、少しずつ交流が増え始めています。

光市室積海岸にある地域に開かれた#福祉メイキングスタジオ「うみべ」に、以前にご紹介した天地成行さんのご縁で、安溪大慧と遊地が遊びに行きました。まったりした空間にくつろいで、絵を見たり昼寝したり歌ったりトランポリンしたり……。一日いても、ドリンクバー付きで三〇〇円。

ここで知り合いになったウクレレ大好きな女性たちが、つばめ農園のおひさま交流館を四人で訪ねてくださいました。開園から一〇年、人工化学物質を使っていない、#阿東つばめ農園のお米のイセヒカリや、白大豆タマホマレの味噌、とれたての野菜などを、ご自分たちで料理して試食。音楽でつながった仲間たちの楽しい遠足のようで、新米の白米と玄米、薪ストーブでの料理や、干し芋づくりの途中のふかし芋などを堪能していただきました。試食のあと新米のお買い上げとご予約をいただきました。年間を通じて予約をいただける方が増えてくると、つばめ農園の経営も安定して



光市の福祉メイキングスタジオ「うみべ」訪問。青い髪の前崎代表（右端）、画家オカビーと記念撮影（2022年11月）

きますから、交流を増やすことは大切な取り組みです。

「望年会」と称する、年中開催可能な名前の集まりも年末年始にあります。地元のお坊さんの呼びかけで始まった「船平山焚き火の会」、子どもたちに安心・安全な食を願うお母さんたちの「ヤッター！やまぐち」のみなさん、山口かんぼ研（山口県環境保全型農業推進研究会）の総会を兼ねた集まりなどにも参加します。

山口かんぼ研ほか県内の有機農業団体の主催で、コロナ流行の中でも休まず開催してきた「#山口県環境保全型農業フォーラム」。今年は三二回目で、二〇二三年二月

二六日(日)に、新山口駅側のKDDI維新ホールで開催します。講師には、東京大学大学院教授で、二〇二二年に「食料安全保障推進財団」を立ち上げた鈴木宣弘のぶひろさんをお迎えします。すでに始まっている食料危機の中で、経費ばかりが激増して収入は増えず、経営が行き詰まっている農家を助け、自給率を高めることの大切さについて話していただき、「農ある未来」へ向けた山口県各地の取り組みについても紹介しています。

## 「特技」は肩こり？

話は飛びますが、東アフリカの共通語であるスワヒリ語には「ミリマ ハイクター ニ ラキニ ビナダム フクターナ (山々は出会わないが、人はいつも出会う)」ということわざがあります。タンザニア西部、エヤシ湖畔のマンゴラ村に通っていた、文化人類学者の和崎洋一さんは、スワヒリ語⇨日本語辞書を作りました。ある時、フンデイ(特技・大工などのわざ)という単語の例文を集めようとして、村の誰かれの「フンデイは何？」と尋ねてまわりました。そうしたら「あいつのフンデイは肩こりだ」という返事と遭遇。「あれほど固く肩が凝

るやつはいなくて、誰も真似ができません」というのです。さあ、そうなると、フンデイを「特技」と訳してはどうにも収まりが悪い。「他人には真似ができないその人らしさ」が誰にもあつて、その中に肩こりも入っていると考えられない(和崎洋一『スワヒリの世界にて』一九七七年、NHKブックス)。和崎さんの出会った東アフリカの社会では、金子みすゞさんの「みんなちがってみんないい」というよりも、スワヒリ語の「キラ ムトゥ ナムナ ヤケ(十人十色)」またはもつと積極的に「みんなちがってみんな変」という世界観があるんじゃないかなあ、と私たちは思いました。

マンゴラ村からもう少し西側のタンガニイカ湖畔に二年間住んで人類学のフィールドワークをした、掛谷誠・英子さんという先輩がいます。水辺から森の中までさまざまな環境で、何を育て、狩りや魚とりなどを加えてどのように暮らしを成り立たせているかの研究をしました。気づけば人々々々、自分の集落にずっといるのではなく、友人を訪ねてあるき回り、そこに何か月も居候するし、またこちらも知人を居候させるという、もちつもたれつの暮らしをしていたのです。ある男が、ある年ががんばって焼畑をたくさん開いて、多くの収穫をあげました。ところ

が居候たちが集まってきて長居して、結局いつもの年よりも早く食料を食べ尽くしてしまつて、彼の家族も、別のところへ居候していくことになったとか。こういう社会では、ある家だけが豊かになるとか、威張るとかいうことは、絶対にできない仕掛けになっていたのですね。

全国統一の成績で人間を薄切りにして入る大学、会社や役所に入ったら報酬や出世を餌に追いついてきた日本。明治以来の「富国」も「強兵」も国づくりの目標としては色あせてしまった今日、TEK(伝統的な生態学知識)とも呼ばれる世界の人々の暮らしの智慧に目を向けてみませんか。人類発祥の地の東アフリカには、人はどこまでも違っていることをそのまま認めながら、誰もが平等に生きることが保証する、そんな寛容な社会のあり方もあったのだということとを年頭にあたつて思いおこしてみました。

(つづく)

(あんけいたかこ・あんけいゆうじ)

QRコードにスマホをかざすと、各サイトが見られます。文中の#マークはパソコン検索用です。



a@ankei.jp  
http://ankei.jp